



高原の自然館ニュースレター

苅尾電波塔

第116号

2013.9.15

高原の自然館

苅尾（かりお）とは、広島県北広島町芸北にある山の名前です。
一般には臥竜山として知られていますが、地元の人たちは親しみをこめて「かりお」
の名前をつかっています。

もくじ

お知らせ

ー八幡湿原おさんぽツアーについて

活動報告

ー可愛川の水生生物観察会

観察会案内

ーサツキマス保全の試み（1）産卵床作り

ー深入山の植物観察会

ーサツキマス保全の試み（2）

ーキノコの観察会

お知らせ

●八幡湿原おさんぽツアーのお知らせ

秋の景色へ変わり始めた八幡湿原を、芸北トレッキングの会のガイドと歩いてみませんか？

ガイドが在館する日に開催し、当日参加のみの受付となっています。大人から子どもまで、湿原の自然を観察しながら、地元ガイドならではのお話も聞くことができますよ。通常は、週末を予定しています。

午前の部：10:30～

午後の部：14:00～

参加費：100円

定員：10名

服装：歩きやすく肌の露出が少ない服装（長ズボン・靴がのぞましい）・タオル・飲み物

※ 高原の自然館のカウンターでお申し込み下さい

観 察 会 報 告

●可愛川の水生生物観察会

開催日時：2013年8月10日（土）13:00

講師：内藤順一

国の天然記念物に指定されているオオサンショウウオなどを観察する、可愛川の水生生物観察会が行われました。36名の参加者が千代田中央公民館に集合し、オオサンショウウオについての事前学習を受けました。生息域は西日本が中心であり、その中でも中国山地の脊梁部に多く生息していること、産卵後は孵化するまでオスが卵を守るなどが分かりました。また、オオサンショウウオの食性や、産卵場所でのオス同士の縄張り争いの様子を、写真やビデオで見て学習しました。参加者からは積極的な質問が相次ぎ、オオサンショウウオへの関心の高さが伺えました。

次に、現地に移動してオオサンショウウオを調査・観察します。先生が調査の為の個体を探している間、子ども達は水生生物を採集しました。今回の調査では、2匹のオオサンショウウオが見つかりました。参加者はオオサンショウウオを間近で見ながら「大きい」や「よく見ると足（前肢・後肢）が赤ん坊の手足みたいで可愛い」など、感想を述べ合っていました。観察の途中、大きい個体が小さい個体に噛み付く場面がありました。その瞬間、ツンとしたにおいが辺りに広がりました。これはオオサンショウウオが防衛手段として出す体液のにおいだそうです。

観察の後は調査に入ります。まずは身体にマイクロチップがあるかどうかを確認します。チップにはそれぞれ識別番号が付いていて、このチップが確認されなければ、未発見の個体として新しく取り付けます。個体数の確認に使われる他に、体長なども測っておき、前回発見された時と比べて、どの程度成長したのかも分かるようになっていきます。内藤先生より「中には前回の計測時よりも縮んでいる個体があったこともある。年齢よりも、食べた量の方が重要なかもしれない」ということを聞きました。

調査を終え、オオサンショウウオを元の場所に返した後は、子ども達が採集していた水生生物の観察をしました。体の黒いラインと、オヤニラミに托卵することが特徴のムギツク、干し

てうどんのだしにする地域もあるギギ、太田川では80% 関東地方では全てがメスで、無性生殖で自身のクローンを作るギンブナといった魚の他に、スジエビやプラナリア（ウズムシ）なども見られました。

「護岸工事や河川改修などで産卵場所が減り、オオサンショウウオの幼生が確認されていない河川が増えてきている。このままでは可愛川でも見られなくなるかもしれない」と、話されました。オオサンショウウオだけでなく、陸地と水辺が接している環境が必要な両生類、産卵のために川を遡上する魚類にとっても、棲みやすい環境を整備していくことが必要だと感じられた観察会になりました。[ありみつまさかず]

※ 観察会での採集は、許可を得ています。



公民館内で、オオサンショウウオについての座学を受ける。



観察場所に到着。堰の下流でオオサンショウウオを探す。



目の横の大きな模様が特徴的なオヤニラミ。産みつけた卵塊を守る習性があり、それをムギツクが利用することを聞いた。



採集した魚類を1種類ずつケースに移して解説される。



オオサンショウウオを捕獲。この日は2匹のオオサンショウウオを捕獲、調査した。



小指の爪の先ほどの大きさのマイクロチップ。注射器を使って体内に埋め込む。

【みなさんの印象に残った物】

「オオサンショウウオが近くで観察できたこと(3)」「大きなオオサンショウウオが、小さなオオサンショウウオにかみついたこと」「プラナリアをとれた」「川にはたくさんの生き物がいると思った」「川の水がきれいできもちよかったです」「生まれて初めてトビケラをつかまえたこと」「マイクロチップを埋め込むのを見ることができました。調査の実態を知ることができ貴重な体験でした」

【参加したみなさんの感想(抜粋)】

「多数の参加者がこれからもあるとよい」「短時間で満足できる観察ができた」「江の川の生き物をひと通り見られて良かった」「あまりオオサンショウウオがとれなかった」「ゆっくり観察することができ、うれしかった」「大変よかったです。オオサンショウウオが2匹も見れました」「分かりやすい説明で楽しかったです」「大きい個体が小さい個体をかんでびっくりした」

観 察 会 案 内

観察会に参加される時には、次のようなものを持参してください。カメラ、双眼鏡、ルーペ、図鑑などもあれば、楽しいと思います。

基本セット：山を歩ける服装、雨具、飲み物、おやつ、筆記用具、メモ帳

作業セット：作業ができる服装、長靴、軍手、雨合羽、飲み物、おやつ

●サツキマス保全の試み（1）産卵床作り

開催日時：2013年9月28日（土）9:30

集合場所：八幡高原センター

講師：内藤順一

準備：作業セット、着替え、タオル

定員数：30名

参加費：無料

※ 損保ジャパンの後援により実施します。

八幡地区には聖湖からサツキマス降湖型が、10月上旬に還ってきます。しかし、上流域は水深が浅く、また、アオサギの存在により、なかなか産卵まで至らないのが現状です。そこで今回は、産卵床を人力で整備します。2週間後、整備した産卵床に産卵するかもしれませんよ。川に入ります。濡れる場合がありますので、着替えをご用意ください。

●深入山の植物観察会

開催日時：2013年9月29日（日）9:30

集合場所：いこいの村ひろしま 研修室

講師：大竹邦暁、佐久間智子

準備：基本セット、お弁当

定員数：30名

参加費：一般=300円、賛助会員=100円

正会員・中学生以下=無料

毎年山焼きが行われることで、草原環境が維持されてきた深入山では、オミナエシ、ホクチアザミといった草原の植物が見られます。近隣の草原の山、雲月山との違いはあるのでしょうか？深入山の成り立ちや植物に関する座学の後、ゆっくり山に登りながら観察します。

●サツキマス保全の試み（2）

開催日時：2013年10月6日（日）9:30

集合場所：八幡高原センター

講師：内藤順一

準備：基本セット、長ぐつ

定員数：30名

参加費：一般=300円、賛助会員=100円

正会員・中学生以下=無料

農業堰直下に溜まっているサツキマス降湖型を捕まえて、上流へ運びます。近年、河川の連続性が重視されていますが、ヒトが遮断した堰はヒトが手助けをしてのぼらせる取り組みです。9月28日に実施予定の「産卵床作り」により、多くの個体が繁殖できればと願うばかりです。

●キノコの観察会

開催日時：2013年10月12日（土）9:30

集合場所：聖湖キャンプ場駐車場

講師：川上嘉章

準備：基本セット、かご

定員数：30名

参加費：一般=300円、賛助会員=100円

正会員・中学生以下=無料

秋の風物詩の1つ、キノコの観察会です。聖湖キャンプ場内を散策してキノコを見つけましょう。見つけたキノコは食べられる？食べられない？どんな名前？どんな場所で見つかる？など、楽しみながら学びましょう。歩きやすい服装と、キノコを持ち歩くためのかごをご用意ください。

8月末の台風と一緒に夏が過ぎ去ったような、涼しい日が続いています。気が付けばセミの代わりに秋の虫達の鳴き声が聞こえるようになりました。八幡では秋の湿原を代表するキセルアザミの他に、アケボノソウやオタカラコウなどが咲いています。心地よく吹き抜ける風を感じながら、初秋の八幡高原を楽しんでいます。（ありみつ）

記事に関するお問い合わせ、観察会のお申し込み先
（ご意見・ご感想もお待ちしています）

高原の自然館（こうげんのしぜんかん）

〒731-2551 広島県山県郡北広島町東八幡原 119-1

tel. & fax : 0826-36-2008

<http://shizenkan.info/>

staff@shizenkan.info